

受賞作品が決まりました

第15回「海の香りのする詩」

海をテーマにした「海の香りのする詩」の受賞作品が決定しました。市内から829点、市外（県内）からは461点の応募があり、回を重ねることに作品のレベルが上がる中、次のみなさんが入賞しました。

教育委員会生涯学習課 ☎ 1268

【市内小学生の部】

大賞 「家族と海」小寺敢（菅島小6）、作品は3ページに掲載しました。

まつたらし

海は空よりも深い、同じ青になる。

入賞 「漁師とマグロくほん」とに勝ったのは〜」中世古智洋（弘道小5）、「えびあみ」中川涼太郎（弘道小6）、「ワカメ」楠木蛍（鳥羽小6）

もし空が曇り、淀んだ灰色になつたら

海は青を消し、同じ灰色になる。

伊良子清白賞 「ばあちゃん」は 今日も海へ」中村隼太（弘道小5）

もし空に夕日が現れ、橙に包まれたら

海はその橙を受け、オレンジに煌く。

奨励賞 「父と魚」村山弘紗（弘道小6）、「答志の海とおばあさん」服部稜（安楽島小6）

もし空の太陽が消え、暗くなつたら

海は微かに輝く月や星たちを見つけたし

その光を自分に照らす。

【市内中学生の部】

大賞 「海の色」 齋藤祐香（鳥羽東中1）
海は臆病者だ。
まわりの色にあわせる小心者だ。

広く広大な海だけ。

色んな色を持つ海だけ。

もし空が晴れ渡り、青く染

本当は誰よりも小さくて

自分のことは後まわし。

自分の中に住んでいる

大切な命たちを守りたくて

自分を殺してまわりにあわせ

海は臆病者だ。それでいて

誰よりも優しいのだ。

でも海には聞こえていない。

自分があわせている空の声も

自分が守っている命たちの声

海は気付いていない。

本当の自分を分かってくれて

いる

友だちがいることに。

入賞 「海と心」濱口紀子（答志中3）、「うみうはかもめに

あこがれて」藤田佳保里（鳥羽東中3）、「涙にさよなら」

鈴木比香理（加茂中3）

伊良子清白賞 「風のあいさ

つ」武中奈那瀬（答志中1）

奨励賞 「きみはうみ」藤田季里（鳥羽東中1）、「潮の香り」

寺田美麗（加茂中1）

みなさんの作品は、受賞作品集として編集し配布する予定です。

人権文化の花を咲かせよう

Vol.114

羽根つき

みなさん、明けましておめでとうございます。どうもごいませ。

今回は、お正月ということ、「羽根つき」をテーマに少しお話させていただきます。

お正月遊びといえば、コマに凧揚げ、羽根つき、カルタなど、今でも日本の伝統として挙げられると思います。

中でも、美しい羽子板で、ムクロジの実に鳥の羽をつけた羽根を、カッタンカッタンと青空に舞わせる羽根つきは、心とむ日本のお正月の風景と言えます。

古来、羽根つきは、新年の悪霊払いや、つき続けること

で厄が払われるようにとの親から子への祈りが込められていたそうです。このような由来があった羽根つきは、時代の流れと共に、女の子の遊びとして盛んになり、それについて、羽子板が装飾されるようになり、のどかな数え歌で調子を取りながら遊ばれるようになっていったそうです。

このほかにも、コマや凧揚げなどにも、それぞれ隠れた祈りが込められており、いつの世も親というものは、こんなささいな遊びの中でさえも「祈り」を込めずにはいられなかったのですね。美しい羽根を、無邪気につきながら遊ぶ子を眺めながら、「願わくは、この子たちが、優しく、素直に、良い社会を築きますように」と。

それは、今も昔も変わることはない、こどもに対する親の「愛情」の表れのようにも思います。

育児放棄や家庭内暴力など、こどもの虐待が深刻な現代ですが、どうか、こどもたちの笑顔が花咲く未来が訪れますように。